

試験番号: II J-08-0023 (2)

受付日: 平成20年 6月19日

枠組壁工法接合部の強度試験

[帯金物 SD3830-S/たて枠・土台接合部/引張試験]

報告書

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成20年 7月29日

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長 工学博士 辻 文三

技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	枠組壁工法接合部の強度試験 [帯金物 SD3830-S/たて枠・土台接合部/引張試験]	
依頼者 (所在地)	株式会社 カナイ (埼玉県八潮市西袋 717-1)	
試験実施日	平成20年6月20日	
試験体	形状寸法	図-1.1
	接合金物 および 接合具	・接合金物: 帯金物 SD3830-S 【SUS304 (JIS G 4305)】, 形状・寸法: 図-1.2 ・接合具: 3#角ビット皿スクリュー $\phi 5.5 \times 45$ (9本) 【SWCH22A (JIS G 3507-2) 相当品】, 形状・寸法: 図-1.2 ・木材の樹種等: たて枠・下枠-スプルース【カナダ格付け規格による No.2】 土台-カナダツガ【カナダ格付け規格による CFLA JPS1】
	試験体数	7体 (うち1体は予備試験体)
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1 に示す。 2. 試験体構成部材の加工および試験体の組み立ては依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠基準	「2007年枠組壁工法建築物 構造計算指針 (2007年11月)、第V編 材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説、pp.235~276」(社)日本ツープイフォー建築協会) に準じて試験を行った。
	試験装置	図-2
	荷重方法	予備荷重用試験体は単調引張荷重、本試験は一方方向の繰返し引張荷重とした。繰返し荷重は、予備試験降伏点変位 δy の25, 50%の変形時に1サイクル、その後75, 100, 200, 400, 600, 800%、以後400%おきの変形時に同一変形段階で3サイクル行うことを目標とした。
	試験体の 設置方法	鋼製土台に、試験体端部を800mm 間隔で固定した。
	測定機器	荷重値の検出には50kN ロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2 に示す位置に設置した変位計を用いた。
試験結果	・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・P- δ 関係の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を【付録1】に示す。	
	・試験許容応力の5%下限値 (Pyo) : 6.2kN ・基準終局耐力 (Pu0) : 9.4kN ・基準剛性 (Ko) : 3.5kN/mm 試験許容応力の5%下限値、基準終局耐力および基準剛性の算定方法は【付録2】による。	
担当者	構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 杉本 敏和	

試験番号：II J-08-0023 (1)

受付日：平成20年 6月19日

枠組壁工法接合部の強度試験

[帯金物 SD3830-S/たて枠・端根太接合部/引張試験]

報告書

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成20年 7月29日

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長 工学博士 辻 文三

技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	枠組壁工法接合部の強度試験 [帯金物 SD3830-S/たて枠・端根太接合部/引張試験]	
依頼者 (所在地)	株式会社 カナイ (埼玉県八潮市西袋 717-1)	
試験実施日	平成20年6月19日	
試験体	形状寸法	図-1.1
	構成部材	・接合金物：帯金物 SD3830-S【SUS304 (JIS G 4305)】，形状・寸法：図-1.2 ・接合具：3#角ビット皿スクリュー $\phi 5.5 \times 45$ (9本) 【SWCH22A (JIS G 3507-2) 相当品】，形状・寸法：図-1.2 ・木材の樹種等：たて枠・下枠・端根太スプルー 【カナダ格付け規格による No.2】
	試験体数	7体 (うち1体は予備試験体)
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1 に示す。 2. 試験体構成部材の加工および試験体の組み立ては依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠基準	「2007年枠組壁工法建築物 構造計算指針 (2007年11月)、第V編 材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説、pp.235~276」(社)日本ツープイフォー建築協会) に準じて試験を行った。
	試験装置	図-2
	荷荷方法	予備荷荷用試験体は単調引張荷荷、本試験は一方向の繰返し引張荷荷とした。繰返し荷荷は、予備試験降伏点変位 δ_y の25、50%の変形時に1サイクル、その後75、100、200、400、600、800%、以後400%おきの変形時に同一変形段階で3サイクル行うことを目標とした。
	試験体の設置方法	鋼製土台に、試験体端部を800mm間隔で固定した。ストッパーを用いて試験体端部の面外変形を拘束した。
	測定機器	荷重値の検出には50kNロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。
試験結果	・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・P- δ 関係の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録1] に示す。	
	・試験許容応力の5%下限値 (Pyo) : 6.4kN ・基準終局耐力 (Puo) : 9.9kN ・基準剛性 (Ko) : 3.0kN/mm 試験許容応力の5%下限値、基準終局耐力および基準剛性の算定方法は [付録2] による。	
担当者	構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 杉本 敏和	